

音声素性によるイメージ喚起

Images evoked by phonetic features

吉田航[†], 篠原和子[‡]

Wataru Yoshida, Kazuko Shinohara

[†]東京工業大学, [‡]東京農工大学

Tokyo Institute of Technology, Tokyo University of Agriculture and technology

[†]yoshida.w.aa@m.titech.ac.jp [‡]k-shino@cc.tuat.ac.jp

Abstract

This study shows that the phonetic feature of voicing in obstruents evokes the image of “largeness” and “heaviness”, and that the first syllable contributes more strongly to this sound symbolism than other syllables.

Keywords -- phonetic features, voicing, first syllable, sound symbolism,

1. はじめに

言語における音とイメージの関係について, Sapir(1929)が恣意的ではないつながりがあるということを実験的に示して以来, 上村(1965), Ohala(1994)などの実験的研究により, 音とイメージの関係は複数の言語で確認された. 内本(2005)は子音の有声性 ([±voiced]) と「汚さ」のイメージのつながりを示し, [+voiced]と[-voiced]の子音を含む2音節語の場合, 第一音節の子音の有声性の方が第二音節の子音の有声性よりも「汚い」イメージに強く影響することも示した. 本研究では, 内本(2005)の実験を「大きい」と「重い」のイメージに応用し, 有声性との関係を実験的に検証する.

2. 仮説と実験方法

内本(2006)による実験を参考にし, [±voiced]の素性には他にどんなイメージがあるか, 以下の仮説1と2を設定した(実験1).

仮説 1: [+voiced]の子音の方が[-voiced]の子音よりも「大きい」イメージを喚起する.

仮説 2: [+voiced]の子音の方が[-voiced]の子音よりも「重い」イメージを喚起する.

また, これらのイメージと有声子音の音節位置の関係について, 仮説3と4を設定した(実験2).

仮説 3: [+voiced]と[-voiced]を含む2音節語の場合, 第一音節に有声音があるときの方が第二音節にあるときよりも, 強く「大きい」イメージに影響する.

仮説 4: [+voiced]と[-voiced]を含む2音節語の場合, 第一音節に有声音があるときの方が第二音節にあるときよりも, 強く「重い」イメージに影響する.

実験1は, 仮説1と2の検証で, 無意味な2音節語40語(20語は[+voiced]の子音のみ, 20語は[-voiced]の子音のみを含む)を刺激語とした. [+voiced]には[g, z, d, b], [-voiced]には[k, s, t, p]の各4種類の子音(これらは順に, 有声性以外の素性はすべて一致する子音)を使用し, 第一・第二音節に同じ回数ずつ出てくるように設定した. 母音も[a, i, u, e, o]が同じ回数ずつ出てくるように設定した. 刺激語をアクセントなしの音声として被験者(日本語母語話者)に提示し, 仮説1では24名に「大きさ」のイメージを, 仮説2では23

名に「重さ」のイメージを7件法で評価してもらった。

実験2では、第一音節が[+voiced]、第二音節が[-voiced]の子音からなる語と、第一音節が[-voiced]、第二音節が[+voiced]の子音からなる語を20組、計40語を刺激語とし、仮説3で29名に「大きさ」のイメージ、仮説4で27名に「重さ」のイメージを7件法で評価してもらった。

3. 結果と考察

以下の図1~4に実験結果を示す。

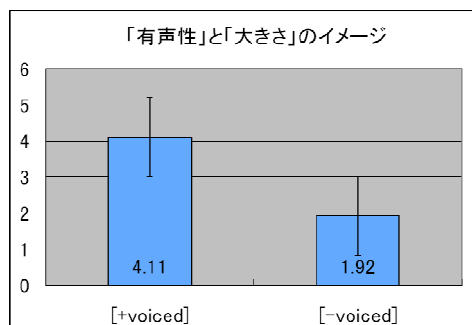


図1 仮説1の実験結果
 $t(23) = 10.75 \quad p < .01$

つ語の方が、第一音節に[-voiced]、第二音節に[+voiced]もつ語よりも有意に「大きい」「重い」と判断された。これより仮説全てが支持された。

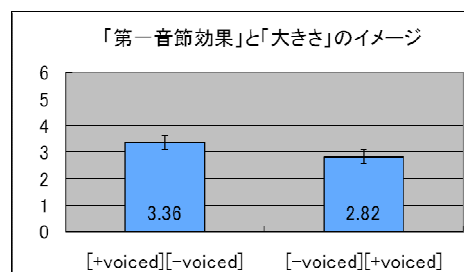


図3 仮説3の実験結果
 $t(28) = 3.74 \quad p < .01$

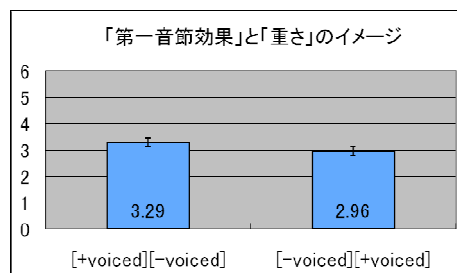


図4 仮説4の実験結果
 $t(26) = 4.04 \quad p < .01$

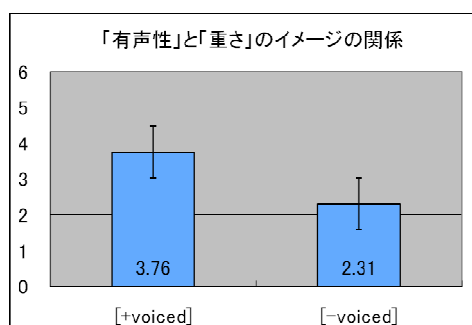


図2 仮説2の実験結果
 $t(23) = 9.71 \quad p < .01$

実験1では、[+voiced]の子音をもつ語の方が[-voiced]の子音をもつ語よりも有意に「大きい」「重い」と判断された。実験2では、第一音節に[+voiced]、第二音節に[-voiced]をも

参考文献

- [1] Sapir, Edward,(1929) “In a study in phonetic symbolism” , *Selected Writings of Edward Sapir*, David G. Mandelbaum, pp.61-72.
- [2] 上村幸雄, (1965)“音声と表象性について”, 『言語生活』 pp.66-71
- [3] Ohala, J.J.,(1994) “The frequency codes underlies the sound symbolic use of voice pitch” In L. Hinton, J. Nichols, & J. J. Ohala(eds.), *Sound symbolism*.. Cambridge: Cambridge University Press. pp.325-347.
- [4] 内本有美(2006)“音韻素性と音のイメージの関係”, 東京農工大学学士卒業論文